



JASDAQ

平成 26 年 4 月 14 日

各 位

シライ電子工業株式会社
代表取締役社長 小島 甚昭
(コード番号: 6658)
問い合わせ先: 取締役 経営管理担当
亀井 正巳
電話番号: 075-861-8100

営業外収益・営業外損失の計上及び特別損失の計上

並びに平成 26 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）におきまして、下記のとおり営業外収益及び営業外損失並びに特別損失の計上を行うこととなりました。また、平成 25 年 11 月 14 日に公表（以下「前回公表」という）いたしました平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の連結業績予想及び個別業績予想を下記のとおり修正することとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上

当社はシンジケートローンによる借入れを実行し、海外子会社に対して円建てで設備投資資金を貸付けております。また、運転資金としてドル建てによる貸付けを実行しております。

このため、連結決算上、平成 26 年 3 月期第 3 四半期におきまして 662 百万円の為替差益を計上しておりましたが、その後為替相場が円安基調で推移したことから、通期におきましては為替差益 980 百万円を計上する見込みとなりました。

2. 営業外損失の計上

中国にあります持分法適用会社の業績不振により平成 26 年 3 月期第 3 四半期におきまして 66 百万円の持分法投資損失を計上しておりましたが、当持分法適用会社の業績が悪化し減損損失を計上することになったことから、通期におきましては 372 百万円の持分法投資損失を計上する見込みとなりました。

3. 特別損失の計上

- ① 合併いたしました当社子会社（グローリア電子工業株式会社）が保有しておりました一部の固定資産（鶴ヶ島倉庫）につきまして、固定資産の減損に関する会計基準に基づき減損損失として 86 百万円を計上する見込みとなりました。
- ② 当社子会社（グローリア電子工業株式会社）との合併に伴い短期貸付金の債権放棄を行ったことから、個別決算において子会社債権放棄損 250 百万円を計上する見込みとなりました。なお、個別決算に計上する当損失につきましては、連結決算上は消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

4. 業績予想の修正

① 平成 26 年 3 月期連結業績予想の修正

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	24,000	500	500	303	21.68
今回予想(B)	25,200	700	1,000	730	52.24
増減額(B-A)	1,200	200	500	427	—
増減率(%)	5.0	40.0	100.0	140.9	—
(ご参考) 前期実績 平成 25 年 3 月期	23,298	156	335	201	14.40

② 平成 26 年 3 月期個別業績予想の修正

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(単位：百万円・%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	11,400	40	140	17	1.22
今回予想(B)	11,300	50	280	△60	△4.29
増減額(B-A)	△100	10	140	△77	—
増減率(%)	△0.9	25.0	100.0	—	—
(ご参考) 前期実績 平成 25 年 3 月期	11,409	222	498	383	27.46

5. 修正の理由

(連結)

売上高につきましては、プリント配線板事業におきましてはカーエレクトロニクス関連やホームアプライアンスを中心に受注を確保し、太陽光発電を中心とした住宅関連の受注が好調に推移いたしました。また、プリント配線板外観検査機事業も海外を中心に堅調に販売できたことから前回公表いたしました業績予想と比べ 12 億円増収の 252 億円となる見込みであります。

営業利益につきましては、売上高の増収効果や国内外での製造力強化活動の展開により製造原価が低減し売上総利益が増加したこと、またグループを挙げて販売費及び一般管理費の圧縮に懸命に取り組んだことなどにより前回公表いたしました業績予想に比べ 2 億円増益の 7 億円となる見込みであります。

経常利益につきましては、持分法投資損失の悪化はあったものの、営業利益が増益となったことや円安の進展により為替差益が増加したことなどにより前回公表いたしました業績予想に比べ 5 億円増益の 10 億円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、固定資産の減損損失を計上することになったものの、経常利益が増益になったことにより前回公表いたしました業績予想に比べ 4 億 27 百万円増益となる 7 億 30 百万円となる見込みであります。

(個別)

売上高につきましては、上述の理由により受注を確保できたことから、前回公表いたしました業績予想と概ね同額の113億円となる見込みであります。

営業利益につきましては、子会社との合併により前回公表いたしました業績予想に比べ10百万円増益の50百万円となる見込みであります。

経常利益につきましては、為替差益の増加により前回公表いたしました業績予想に比べ1億40百万円増益の2億80百万円となる見込みであります。

当期純利益につきましては、経常利益の増益はあったものの、固定資産の減損(鶴ヶ島倉庫)及び子会社との合併に伴い短期貸付金の債権放棄を行ったことから前回公表いたしました業績予想に比べ77百万円減益の60百万円の当期純損失となる見込みであります。なお、子会社の債権放棄につきましては連結業績に与える影響はありません。

※業績予想につきましては、本資料発表時現在において得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は状況の変化により、上記の予想数値と異なる場合があります。

以 上